



< 2026年大学日本画展開催のお知らせ >

UNPEL GALLERY（アンペルギャラリー）は、運営母体であるあいおいニッセイ同和損保のメセナ活動として、日本画の伝統に根差しながら、その可能性を模索すべく日夜取り組んでいる作家グループを応援しています。今回は、アーティストグループ「ビッグ・ネイチャー・ペインティングス」ー佐藤健太郎、土田翔、安田萌音ーをご紹介します。互いの視点を擦り合わせながら、「自然を描く」ことの意味を問い直し、展覧会を通じて表現の可能性を模索した展示をご覧ください。

■展覧会概要

タイトル	『山河在』 ～土田翔・佐藤健太郎・安田萌音 3 人展～
会 期	2026 年 10 月 3 日（土）～10 月 25 日（日） 11:00 ～ 19:00（月曜定休・最終日 17:00 まで）【入場無料】
イ ベ ント	ギャラリートーク 10 月 3 日（土）14:00～
会 場	UNPEL GALLERY 東京都中央区日本橋 3-1-6 あいおいニッセイ同和損保八重洲ビル 1F
参 加 作 家	佐藤健太郎（さとうけんたろう）、土田翔（つちだしょう）、安田萌音（やすだもえと）
展覧会内容	「山河在」は、杜甫の詩「春望」の一節「國破山河在」から引用しています。「春望」は、戦乱による不条理を憂いながら、山河、草木、花、鳥といった風景を通して、人間の感情や時代の揺らぎを描いた詩です。 本展では、山河を単なる自然風景ではなく、都市や文明と地続きにあるものとして捉え直します。大地の隆起や水の循環と同様に、都市や文明もまた生成と消失を繰り返していると考えれば、文明も山河のなかに在ると言えるかもしれません。 佐藤健太郎、土田翔、安田萌音の 3 名は、自然の循環や身体感覚、素材に生じる変化を手がかりに、それぞれ異なる視点と方法から「山河」を捉えます。古典の詩と現代の作品が重なり合う中で、「山河」を現代に読み直す展覧会です。 ※大型作品を中心に、6～8 点を展示予定
主 催	佐藤健太郎・土田翔・安田萌音・柏倉風馬(コーディネーター)
企 画	UNPEL GALLERY

< ご連絡・お問い合わせ先 >

ギャラリーオフィス 11:00～19:00 月曜定休（担当 / 井上・渡邊）

E-mail / tsubaki@unpel.gallery <https://unpel.gallery/>

TEL / 03-3548-7780 FAX / 03-3548-7781 * お問い合わせは E-mail にてお願いします

■作家プロフィール

佐藤健太郎

宮城県出身

2015 年 多摩美術大学 美術学部 絵画学科 日本画専攻 卒業

2017 年 多摩美術大学 大学院 美術研究科 日本画領域
博士前期課程 修了

【主な展覧会経歴】

2023 年 「東京現代」パシフィコ横浜 / 神奈川 ('24, '25)

2024 年 「佐藤健太郎 個展『万物流転』アートフェア東京」
ア・ライトハウス・カナタ / 東京国際フォーラム

2025 年 「FRIEZE SEOUL」ソウル / 韓国

2026 年 「Basel Hong Kong」/香港



「 風ノ形象 」

2025 年制作 2100 × 4500 mm

岩絵具、墨、金属泥、金属箔、
鳥の子紙、木製パネル

【コメント】

これまで私は、「自然」を主題に、とりわけ水や風の働きに着目して制作してきました。自然は多大な恩恵をもたらす一方で、抗いがたい脅威を内包する存在でもあります。そうした相反する性質は単なる二面性にとどまらず、近年ではより複雑で多層的なものとして感じています。自身の体感を起点に、「自然とは—」という問いに向き合いながら、画面に現れる素材や現象と対話しつつ、その力を取り込み制作しています。

土田翔

福島県出身

2020 年 東北芸術工科大学 日本画コース 卒業

2022 年 東北芸術工科大学 大学院修士課程 芸術文化専攻
複合芸術領域修了

【主な展覧会経歴】

2024 年 土田翔 展 - GOLD PLANTS - /画廊翠巒（群馬）

2025 年 土田 翔 視／触覚の氾濫 /Gallery TURNAROUND
（仙台・企画:和田浩一）2025 年 「共鳴 — 椿絵コレクション×現代の作家たち」大賞受賞
UNPEL GALLERY /東京2025 年 「福島アートアニュアル 2025 site——representation
土田翔／鈴木悠哉」/福島県立美術館（福島）

「Recount」

2026 年制作 サイズ可変

板・岩絵具、墨、胡粉、
ミクストメディア

【コメント】

私は自然と一体になりたいという欲求があります。そのため、大いなる自然の在り様をダイレクトに写し取る手法を用いて対象と向き合っています。絵を描くことは、私たちが自然と向き合うことに似ています。支持体を現場に持ち込み、対象と限りなく近づくために自然に身を刻みます。川や山、風などの自然と同体化し、対象との実感を絵画に刻まれる痕跡として、より激しく表現したいと考えています。

安田萌音

神奈川県出身

2015 年 多摩美術大学 美術学部 絵画学科 日本画専攻 卒業

2017 年 多摩美術大学 大学院 美術研究科 日本画領域

博士前期課程 修了

【主な展覧会経歴】

2019 年 「安田萌音 個展 “vestiges”」 / ギャラリー東京ユマニテ bis (東京)

2022 年 「安田 萌音 × 角谷 郁恵 「偶然を築く」

/ KATSUYA SUSUKI GALLERY (東京)

2022 年 「安田萌音 MoetoYASUDA」 / 楽空間祇をん小西 (京都)

2026 年 ヴィセラル I / ギャラリー K (東京)



「Wanderers」

2024 年制作 900 × 600 mm

6 枚組

土、木片、麻布、木製パネル

【コメント】

毛細管現象や重力、浸透、乾燥といった自然の作用を制作に取り入れています。自然を自らの手で描写するのではなく、それらの現象が生じる条件を画面の中につくり、液体や顔料が移動し、滞留し、定着していく過程そのものを作品にしています。制御できる部分と素材に委ねる部分を行き来しながら、目には見えにくい力の働きや時間の蓄積を、痕跡として留めることに関心があります。

【ビッグ・ネイチャー・ペインティングスとは】

ビッグ・ネイチャー・ペインティングスは、佐藤健太郎、土田翔、安田萌音、柏倉風馬（コーディネーター）によるアートグループです。3 人のアーティストは、自然へと迫ろうとする感覚を共通して持ちながらも、それぞれ異なる視点から制作に取り組んでいます。

「自然を描く」とは一体何なのでしょう。それは単なる自然の再現ではなく、自然をどのように捉え、どのように表現するのかという問いでもあります。その解釈を探ることが、本グループの活動の一つです。

互いの視点を擦り合わせながら、「自然を描く」ことの意味を問い直し、展覧会を通じて表現の可能性を模索していきます。

【展覧会経歴】

2025 年 「BIG NATURE」/ トキ・アートスペース (東京)

2025 年 都美セレクション グループ展 2025「感性が自然に擬態する」/

東京都美術館 ギャラリー B